

紙芝居

紙芝居はクイズ形式で実施。知識の一方向的な投げかけではなく、子どもたちと言葉を交わしてコミュニケーションを取ることが大切です



高齢者劇

「この時ばかりは役者に徹する」団員たちが高齢者に扮して劇を披露



人形劇

コロナ禍に入る前、人形劇は年5~6回公演していました。着ぐるみを使用する前は、手づくりの人形を使って劇を演じていました



④災害発生時の対応について話す団員。聞き手にわかりやすく伝えるよう、話し方も工夫しています ⑤手づくりのエプロンタイプの人形

AED

街の各所で見かけるAED。ところが、使用方法について知らない人が多いので、指導して覚えてもらうのは、女性団員の重要な任務です



info

- 救急法指導(中学校、高校、大学、一般、事業所)
- 人形劇→夏以外 幼稚園、保育園(所)など
- 防火紙芝居→主に11月限定幼稚園、保育園(所)など
- 高齢者劇
- 自治会主催の防災訓練→当該地区の団員数名参加
- その他、市が主催する行事(出初式、防災訓練等)
- 全国女性消防団活性化大会(2022.徳島大会参加予定)
- 全国女性消防団操法大会(2023.鈴鹿市女性消防団出場決定)
- ※月2回の訓練、月1回の会議、年4回の分団長会議

Hiまわり分団 問い合わせ先  
059-382-9133(鈴鹿中央消防署消防団G)  
059-382-9165(鈴鹿中央消防署 救急G)

鈴鹿市消防団 PR映像



もし服に火が着いたら……

SDR

キャンプ・アウトドアで覚えておきたい知識

着衣に着火した時は、ストップ・ドロップ・アンド・ロール(SDR)が消火方法として効果的。パニックにならず、一度止まり(ストップ)、地面に倒れて頭部への延焼を防ぎ(ドロップ)、サイドに左右に転がり(ロール)、消火します



S STOP 止まる  
D DROP 倒れる  
R ROLL 転がる

冬に特に気を付けること

トイレや廊下、脱衣所などは、暖かい状態を保ってヒートショックを予防しよう!

自分の身は自分で守るといふ考え方で生活していただくこと  
ヒートショックなどの予防につながります

田さんによつて「調理中はキッチンから絶対離れない」という回答が得られました。「放置した鍋が焦げて火災になるケースは、多発しています。キッチンを離れる場合は、たとえわずかな時間でも必ず火を止めてください」と藤田さんは念を押しました。また、石油・電気・ガス問わず、ストーブに燃えやすいものが接触して火災が起ることも多いので、周囲に燃えやすいものは置かないようにしましょう。

「高齢者劇でもお伝えしています。冬はヒートショックによる健康被害が相次いでいます。予防のため、トイレや廊下、脱衣所などは暖かい状態を保ってください。また、熱めの湯温や長湯も禁物です。火災も家庭内の健康被害も、自分の身は自分で守るといふ考え方で生活していただくことと予防につながります」と藤田さんは最後に自助の重要性を訴えました。Hiまわり分団は、来年結団25周年を迎えます。やさしさと正義感にあふれる団員の活動を地域全体で応援するとともに、防火・防災・救急に対する意識を今一度高めたいものです。

巻頭特集

防火・防災の啓蒙に尽くす

女性団員だけの消防団

Hiまわり分団

消防の世界で活躍する女性は意外と多く、近年では「消防女子」としてメディアでも取り上げられるようになりました。実は鈴鹿にも女性だけの団員で構成された「Hiまわり分団」という消防組織があり、長きにわたって活動を続けています。



1997年に結団  
志高き団員は18人

「Hiまわり分団」の分団長を務める藤田満智子さんによれば、1997年4月発足、5月に結団式を行い、団員は15人でした。現在は18人体制となり、藤田さんを含め、創設から在籍している方は6人います。団員歴がもっとも浅いのは、2年前に入団した藤井美和子さん。普段は市内で美容関係の仕事に携わっているのですが、どのようにして入団に至ったのでしょうか。

「以前小学校のPTAで教わった救急法の講習を受けるため、鈴鹿市中央消防署に出かけました。すると、そこにHiまわり分団の先輩団員がいらつしやつて、声をかけてもらったんです。ちょうど子育てがひと段落したタイミングで、「人の役に立てることをしたい」と思っていたので、チャレンジしてみようと思いました」Hiまわり分団は、藤井さんのように前向きな理由で団員を志した方ばかり。「仕事で習得した救急法を広めたい」との思いから、介護士や看護師として働いている人も入団しています。

消防と地域への愛が活動の原動力に

女性団員の活動は、男性団員とは異なり、火災・災害発生時に現場での諸活動は実施しません。基本的には平常時に防災教育や応急手当て等を指導する啓発活動に尽力。例えば救急法の指導では、中学校や高校、一般企業に応急手当指導員資格などを

有する団員が外向き、応急手当の基本技術、心肺蘇生(心臓マッサージと人工呼吸)の方法、AED(自動体外式除細動器)を用いた除細動などを教えます。また、幼保育園児や放課後デイサービスの利用児童、公民館に集まった未就学児などを対象に、総務省消防庁が作成した防火・防災に関する紙芝居も披露。これは毎年11月9日から15日の1週間が秋の火災予防週間に設定されるのに合わせて同月中に実施されます。



左)分団長

藤田満智子さん  
昨今は新型コロナウイルスの対応に皆さんの意識が向いていましたが、やや落ち着きを取り戻しつつある今、改めて防火・防災の予防について各家庭での準備を進めていただきたいです

右)団員

藤井美和子さん  
救急法の指導に出向いた中学校の生徒さんが作文で「カッコよかった」と書いてくれたことがあり、とてもうれしくなりました。子どもたちの憧れの存在でいられることを誇りに思います

「消防と地域への愛があるから大丈夫です」と藤田さんは満面の笑みを浮かべました。これだけ多様な活動を仕事や家事をしながら続けるのは大変ですが、「消防と地域への愛があるから大丈夫です」と藤田さんは満面の笑みを浮かべました。さらさら寒い冬がやってきます。毎年全国的に火災のニュースが増える季節ですが、私たちはこの時期防火についてどんなことに気をつけようか。この質問を藤田さんに聞いてみました。

火災の発生率が上がる冬 防火意識を今一度高めて

ほかにも、夏の熱中症や冬のヒートショックの危険性を訴える高齢者向けの劇や、市の総合防災訓練や消防本部主催の「火の夢フェスタ」といった行事での啓発活動、各種研修や訓練で自分たちの知識を深めることにも努めています。



Hiまわり分団の事務方として団員を支える、鈴鹿消防本部の大東健太さんと山際信寛さん